

NPO 法人びーのびーの理事長/NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会理事長 奥山 千鶴子

「今こそ総力をあげて、子どもが育つまち、
子育てに安心と誇りがもてるまちづくりへ」

1. 子育て支援の場で感じていること

(親自身や家庭)

- 親の価値観、生育暦などは変えにくい
- 女性のキャリア形成とあきらめ
- 弱みをみせられない、自己防衛
- 子育ての身近なモデルがない
- 出産による、あまりに急激な生活の変化
- 三歳児神話や理想的母親像への縛り
- 妊娠・出産で変わる夫婦関係



家庭への支援が必要です

*親になったことへの敬意と尊重。プラス面、良いところから。 *困難に寄り添う。
*不安の軽減と親としての自信を育む関わり *子どもの発達を親と共に支える

(現状)

- 初めて子どもが生まれる前に、赤ちゃんの世話をしたことがない 75.1% (横浜市)
- 将来的に子どもがほしいか 子どものいない人の4人に一人はほしくない (連合)
理由: 自信がない、金銭的余裕がない、子どもが苦手、子育てが大変そうなど
- 社会全体が妊娠や子育てに冷たいと感じる 36.3% (こども未来財団)
- 6歳未満児をもつ男性の家事・育児時間 (一日) 1時間7分 (OECD 諸国 2時間半以上)

2. お伝えしたいこと

- (1) 安心して出産・子育てをするためには、社会が変わらなければならない。
→ 社会が変わらなければ、親も変わらない。親と共に、子どもに関わる。
- (2) 妊娠期からの切れ目ない支援を、実感できる施策へ
→ 核家族でも、里帰りしなくても、安心して出産・産後ケアが受けられる。
- (3) 乳幼児をもつ家庭への支援が、その後の子どもの育ちに大きな影響をもつ。
その子自身の育ちが、親となる際のロールモデル
*家庭への支援とは、親の成長を促すものであって、甘やかしとは異なる。
- (4) 子ども・家庭支援に関わる援助者の充実
→ 保育士、幼稚園教諭、保健師、社会福祉士、臨床心理士、ソーシャルワーカー等
子ども・子育て支援新制度に位置づけられた「利用者支援専任職員」
- (5) 支えられるものから支えるものへ、地域の出番です!
→ 家庭を支えることはすなわちまちに受け入れること、是非支え手に
- (6) 一人暮らしでも困らない世の中で、結婚・子育ての価値を伝える
現状の子育て家庭 → 幸せに見えているのでしょうか?

3. 今後の期待

- (1) 平成 27 年 4 月スタートの「子ども・子育て支援新制度」
やっと恒常的な予算が子ども・子育て分野に投入されました。
しかし、まだ予算が充分ではありません。OECD 諸国の 1/3 にとどまっています。
- (2) 暮らしやすい、子育てしやすい地方都市の再生
県庁所在地市等、ある程度の人口集積地では、核家族化、人口の流入、転出入に伴う子育てを困難にする社会の縮図がある。首都圏等の大都市に出なくとも、子育てがしやすい都市として支援策が整い、ひと・もの・しごとが集積していることが大事。

ひと・まち・しごと創生に関する総理と有識者との 懇談会

(資料)

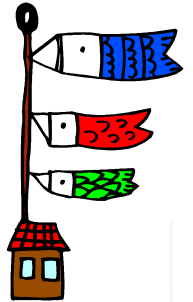
平成26年8月27日

NPO法人びーのびーの
NPO法人子育てひろば全国連絡協議会

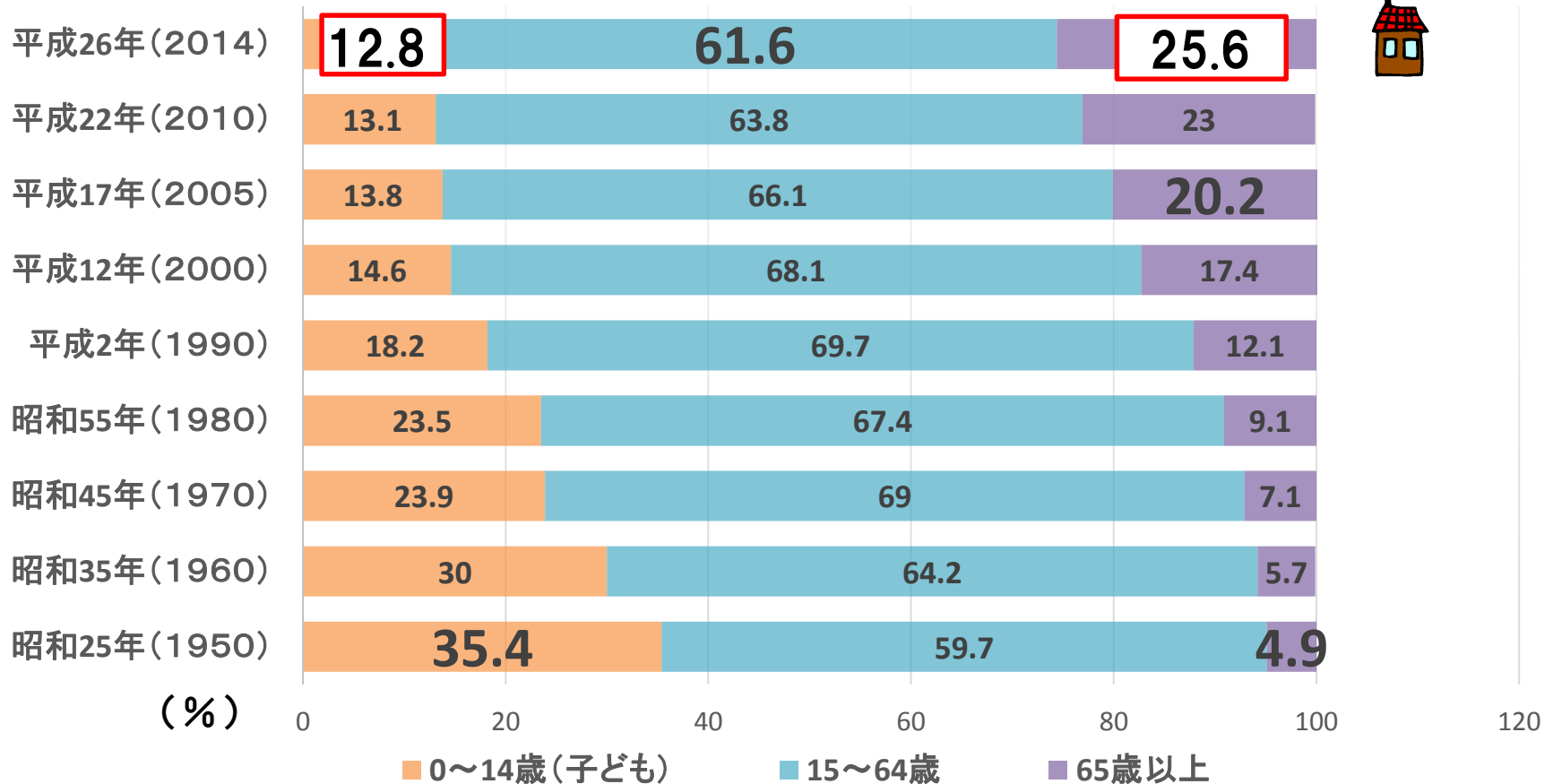
奥山 千鶴子

日本の少子・高齢化の現状

こどもの日発表！



年齢3区分別人口割合の推移(%)



人口推計(総務省統計局 2014.05.04発表)

各国における子ども（年少人口）の割合（％）



資料：国連人口統計年鑑（2012年版）

日本は、平成26年4月1日現在（概算値）、各国は最新の数値を掲載

日本の結婚事情、出産事情

1. 日本人の平均初婚年齢（2012年）

参考：1995年

男性 28.5歳

女性 26.3歳

男性 **30.9** 歳

女性 **29.3** 歳

2. 第一子出産時の母の年齢

参考：1995年

女性 27.5歳

30.4 歳

日本の結婚事情、出産事情

3. 生涯未婚率

* 生涯未婚率とは、「45～49歳」、「50～54歳」の2つの層の未婚率 (=一度も結婚したことがない人の割合)の平均を取り、50歳の時点で結婚した人がない人の割合

2010(平成23年) 男性 **20.14%**
女性 **10.61%**

1980(昭和55年) 男性 **2.60%**
女性 **4.45%**

* 1990年に男性の生涯未婚率は5%を超えて女性を上回った。

◎なぜ、日本だけが急激に
少子化が進むのか？

◎結婚・子育てを、社会は
どう応援すべきか？

働き方の変化

◆世帯構成の変化

(30年間)

	1980年	→	2010年
共働き世帯	614万世帯		<u>1011万</u> 世帯
専業主婦世帯	1114万世帯		825万世帯

◆雇用形態の変化

(20年間)

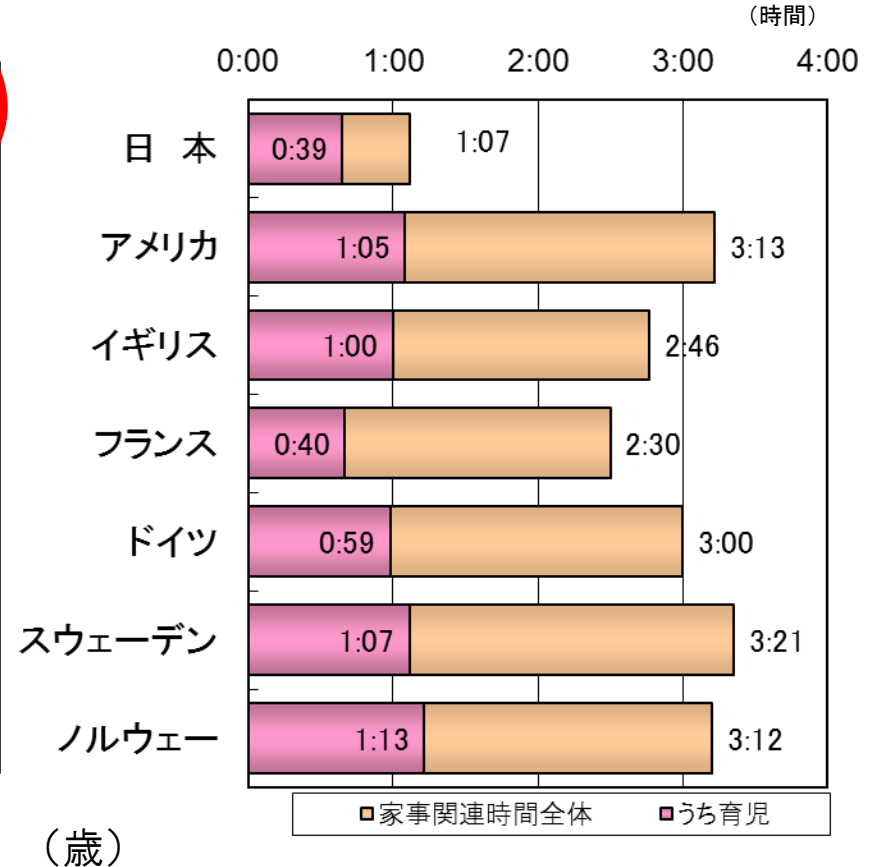
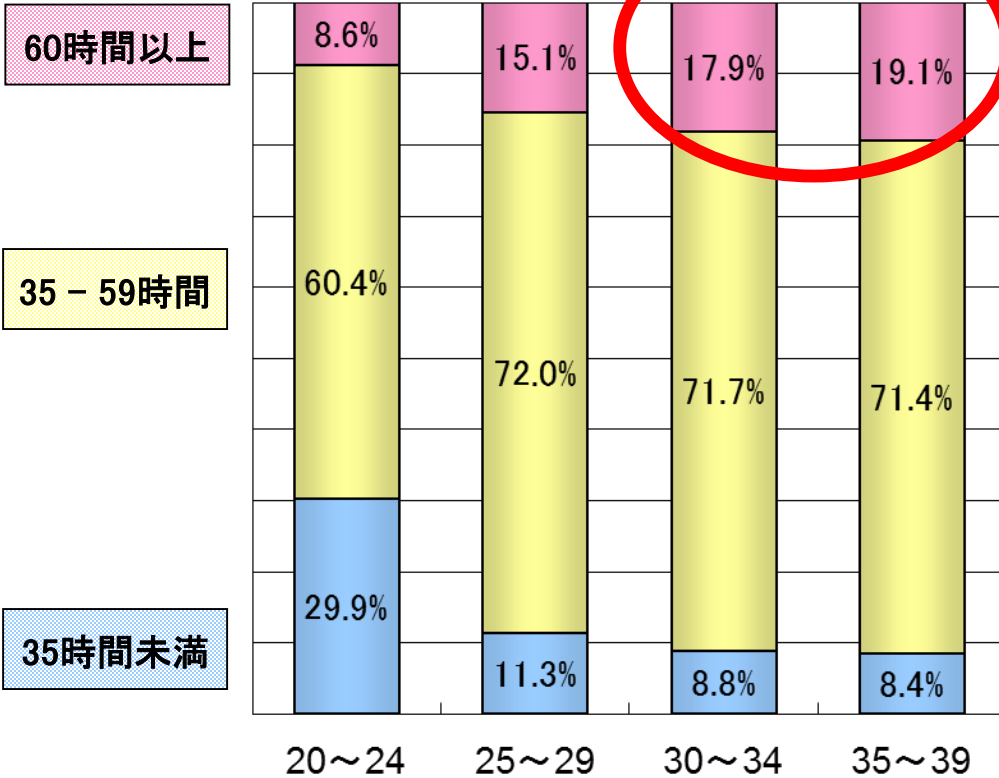
	1991年	→	2011年
非正規雇用割合	19.7%		35.4 %

子育て世代の男性の長時間労働

男性就業者(非農林業)の1週間の就業時間

6歳未満児をもつ男性の家事・育児時間(1日平均)

2010年



夫の家事・育児

夫の家事・育児の遂行頻度と今後子どもを持つ予定がある妻の割合(第5回調査)

家事の遂行頻度	今後子どもを持つ 予定がある妻の割合(%)			ケース数		
	子ども数0	子ども数1	子ども数2	子ども数0	子ども数1	子ども数2
全体	65.3	57.6	15.0	196	314	426
ほとんどしない	48.1	54.9	13.5	27	71	133
あまりしない	63.0	56.0	14.3	46	75	119
よくする	70.4	61.7	17.5	115	154	154
育児の遂行頻度	今後子どもを持つ予定 がある妻の割合(%)		ケース数			
	子ども数1	子ども数2	子ども数1	子ども数2		
全体	57.6	15.0	314	426		
ほとんどしない	45.5	14.3	44	49		
あまりしない	59.0	11.6	83	129		
よくする	60.7	18.3	150	213		

注) 妻の年齢が40歳未満について集計。

全体の値は家事得点が不詳、育児得点が不詳のケースを含む。

女性の出産後継続就業率と育児休業取得率

◆女性の出産後継続就業率

2010年	出産前有職	78.6%
	出産半年後有職(育休含む)	42.6%
	出産半年後無職(学生含む)	36.0%
	出産1年前無職(学生含む)	19.9%

◆男女別育児休業取得率

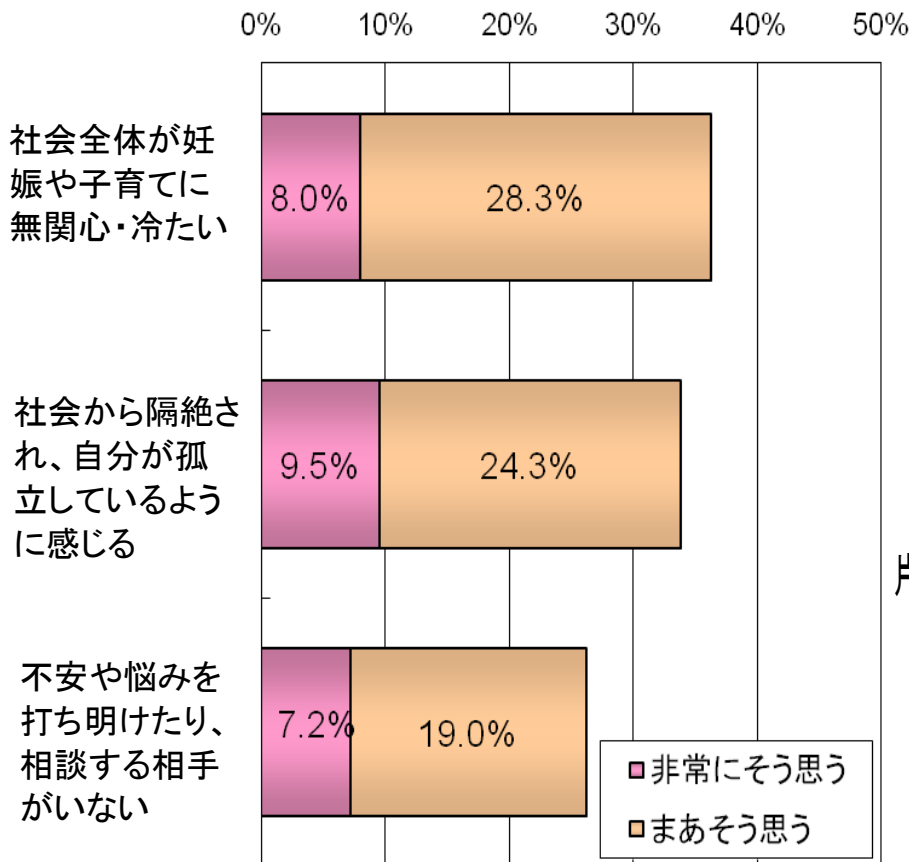
2012年 出産した女性労働者に占める育児休業取得者の割合 83.6%

配偶者が出産した男性労働者に占める育児休業取得者の割合

1.89%

孤立化する子育てと負担感の増大

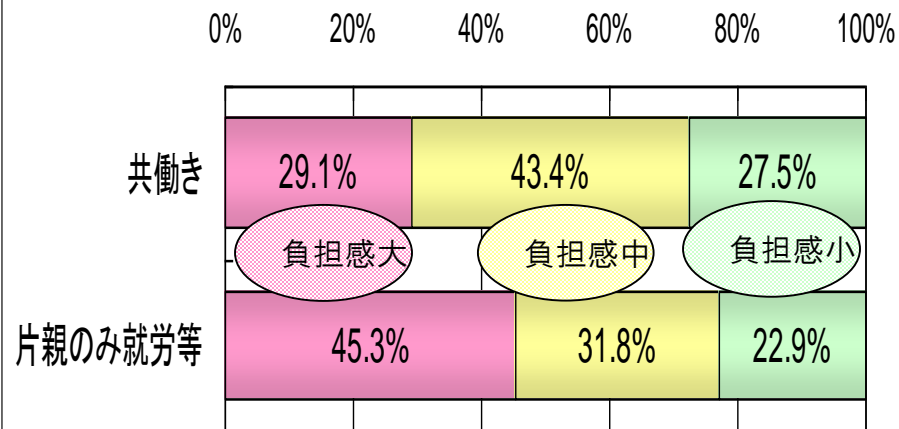
妊娠中又は3歳未満の子どもを育てている母親の
周囲や世間の人々に対する意識



資料：財団法人こども未来財団「子育て中の親の外出等に関するアンケート調査」(2011年)

専業主婦家庭の方が、子育ての負担が大きいと感じる者の割合が高い。

女性の子育ての負担感

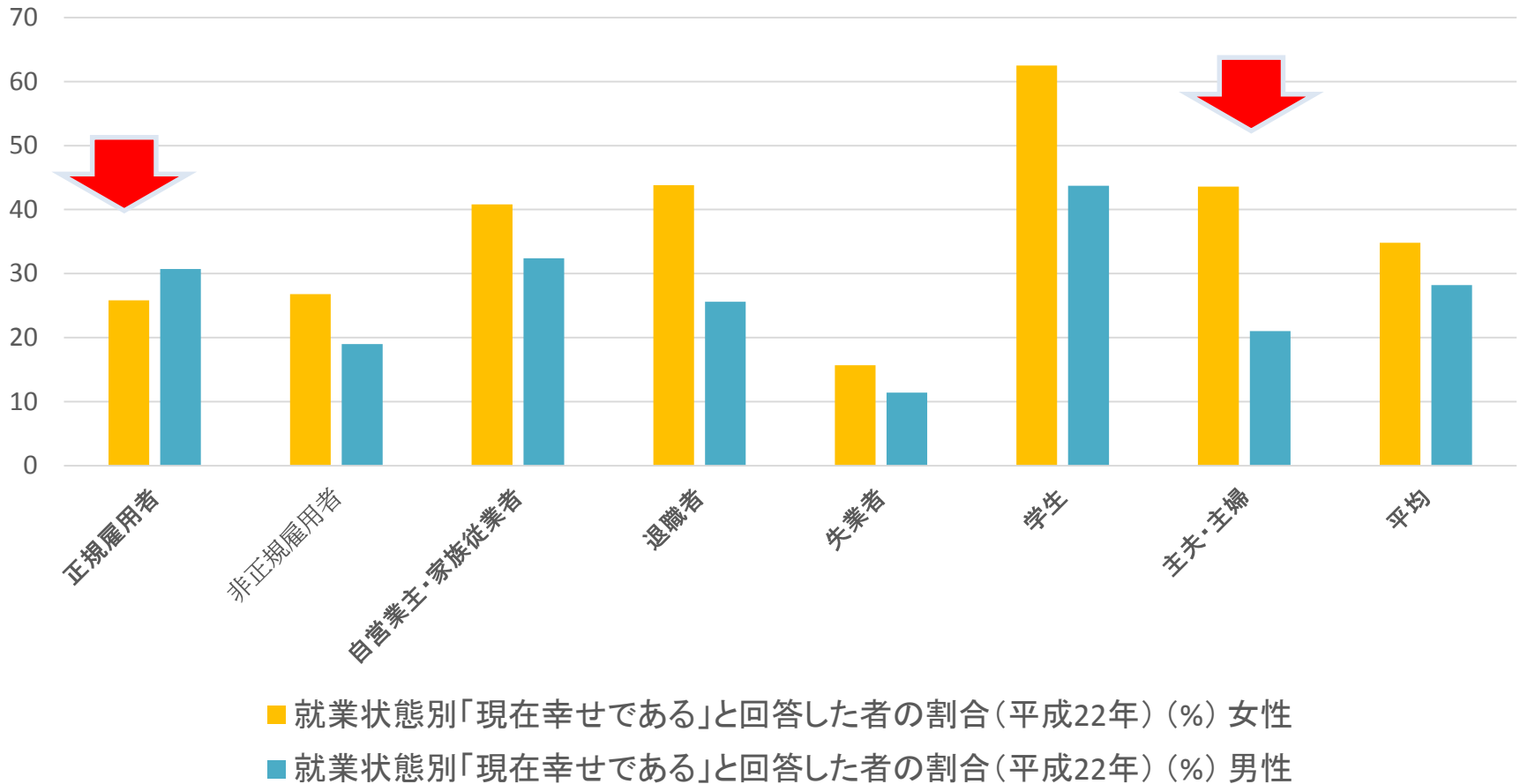


(資料)(財)こども未来財団「平成12年度子育てに関する意識調査事業調査報告書」(平成13年3月)

幸福度と生活満足度（男女別）

平成26年度版男女共同参画白書より

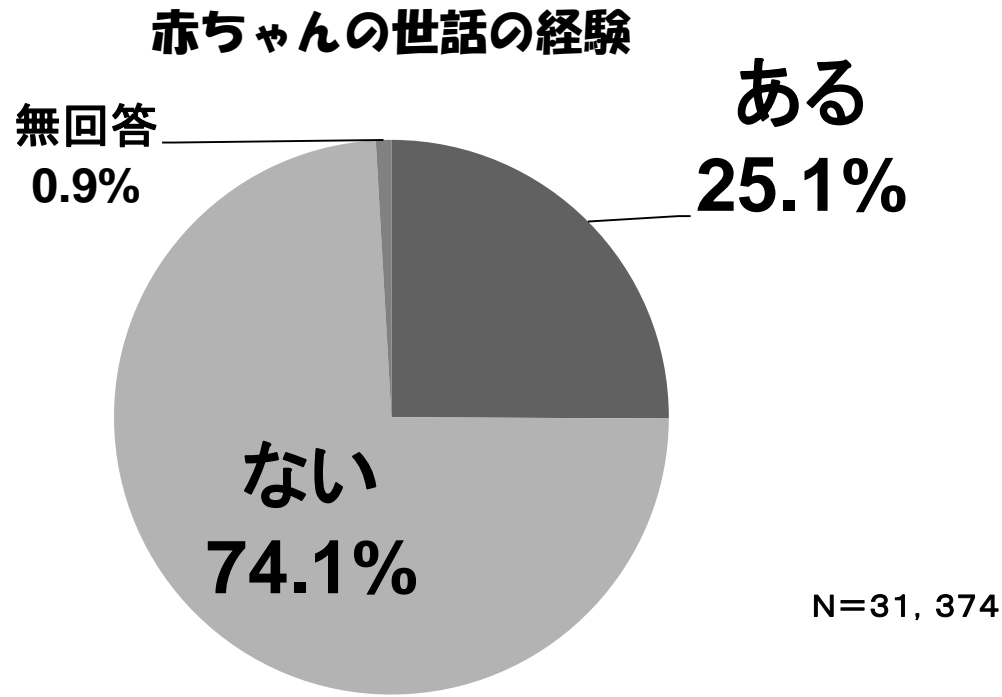
就業状態別「現在幸せである」と回答した者の割合（平成22年）



(参考) 横浜市のニーズ調査結果から(平成26年1月)

**初めての子どもが生まれる前に、
赤ちゃんの世話をしたことがなかった人は**

74.1 % !



子どもを持つことに対する意識について

(2013年 連合 子ども・子育てに関する調査より)

全回答者(3,000名)に、将来的に子どもが欲しいか(既に子どもがいる人にはさらに欲しいか)聞いたところ、現在子どもがいない回答者(1,831名)では、「子どもが欲しい」は73.4%、「子どもは欲しくない」は26.6%。

現在子どもがいない人の 4 人に1人が子どもを欲しくないとの結果

◆子どもが欲しくない理由

「ちゃんと育てる **自信** がない」「**金銭** 的な余裕がない」

「子どもが **苦手**」「子育てが **大変** そう」「自分たちの **時間** がなくなる」

調査の概要

- ◆調査タイトル: 子ども・子育てに関する調査
- ◆調査対象: ネットエイジアリサーチのモバイルモニター会員を母集団とする20歳～49歳の男女
- ◆調査期間: 2013年4月26日～2013年5月2日
- ◆調査方法: インターネット調査
- ◆調査地域: 全国
- ◆有効回答数: 3,000サンプル(有効回答から3,000サンプルを抽出)

子ども嫌いの国 につぼん？

少子化対策だけでいいのか？

ワークライフバランス
(家庭と仕事)

誰が、家族をどう支えるのか？

地域子育て支援拠点で把握される家庭状況①

子育てが辛いんじゃない。子どもたちはかわいい。でも不安や孤独で押しつぶされそうで、どうしようもない時がある。



知り合いもおらず、地理もわからない土地で子育てのスタートはとても辛かった。家の中で赤ちゃんを抱えひどく追い詰められていたと思う。

ひろば全協発行
「子育てひろば0123育ちの詩」から

産休前は教師としてバリバリ働いていたのに、社会からの疎外感。息子はアトピー。それでも周囲に弱さを見せられずにいた。

息子はトラブルメーカー。「私の育て方のせいなのか」とひどく落ち込んだ。

地域子育て支援拠点・子育てひろばの利用での変化

ひろば全協発行

「子育てひろば0123育ちの詩」から

●私の人生、育児に対する想いを180度変えた。

もう一つの家庭のような雰囲気。
子どもがのびのび遊び、親同士が
育児の話を楽しそうにしていた。
今でも育児のイライラ、苦難はある
が、私は以前の私とは違う。

●母親の精神状態が健康でないと、子どもはぐずぐず荒れ始めうまくいかないものだ。

笑顔でいるためには、支援を受容する柔軟な心も必要だ。

●出会いの中で不安が取り除かれ
育児に自信が持てた。

●楽しいことを一緒に体験する中で、
さざ波のように人の輪が広がる。



地域子育て支援拠点で把握される家庭状況②

トラブルばかりで、子どもがかわいく思えない。将来、犯罪者になってしまうかもしれないと訴える。

夫からお金のことを厳しく管理されている。子どもの怪我を母親の責任と責められる。

子どもが、特定のことに集中するが、他に関心が広がらない。いきなり走ったり、一方的だったり。発達に不安があり、途方にくれている。

外国籍でシングルマザー。保育所に子どもを預けたいが、待機児童が多くて無理と言われ、それ以上アクションがとれない。



英語が大事だと思ったので、赤ちゃんに毎日聞かせている。夫も早期教育に関心がある。

第二子が生まれてから、上の子が荒れ始めた。親は赤ちゃんコーナーにいて、上の子を見ないようにしているように周りには見える。

妊娠期から乳児期への支援が急務

- 親の価値観、生育暦などは変えにくい
- 出産・子育てが、親のマイナス面を引きだすきっかけとなりうる
- あまりに急激な生活の変化
- 女性のキャリア形成とあきらめ
- 三歳児神話や理想的母親像への縛り
- 弱みをみせられない、自己防衛
- 妊娠・出産で変わる夫婦関係
- 子育ての身近なモデルがないこと



家庭への支援が
必要です！



- * 親になったことへの敬意と尊重。プラス面、良いところから。
- * 不安の軽減と親としての自信を育む関わり
- * 子どもの発達を親と共に支える

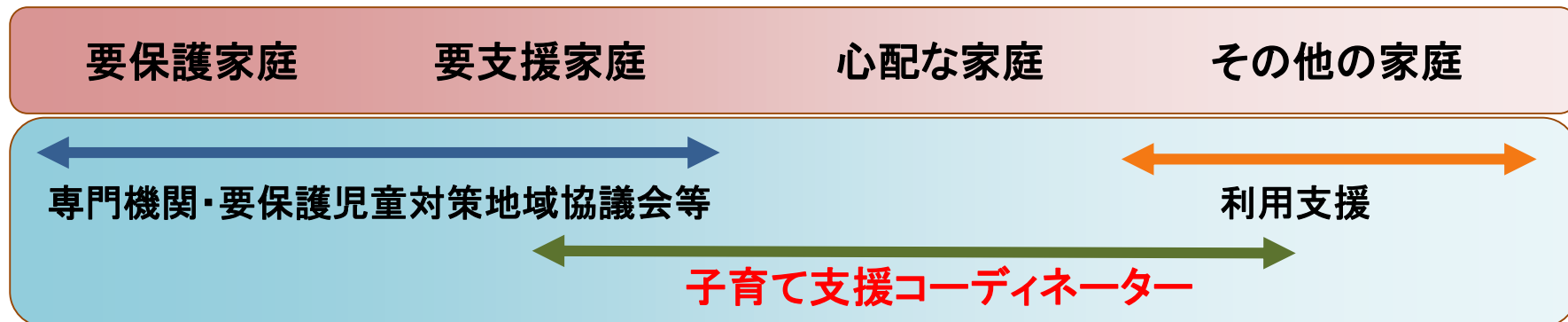
心配な子育て家庭に予防的に関わるコーディネーターの必要性

子育てひろば全国連絡協議会では、調査研究を踏まえて、子育て支援コーディネーターを提案。新制度の利用者支援事業での取り組みを想定。

【定義】

子育て家庭が有する課題やその力を包括的に把握、予測したうえで、本人の力や地域資源を生かしながら、個別の家庭状況に応じ、支援策を調整、調達する。
あわせて、すべての子育て家庭が子どもを授かり、子どもを育てることを開始した時から、社会的に包摂される仕組みを地域の中につくることを指向し、より包括的、予防的にコーディネートする役割を担う。

【対象】



平成27年新制度の施行に向けての事業計画づくり



さまざまな子ども・子育て家庭

在宅家庭

保育が必要な家庭

幼児教育を受ける家庭

学齢期の留守家庭

特別な支援が必要な家庭

ニーズ調査による把握

市町村子ども・子育て支援事業計画

利用者支援や相談事業での把握

利用者支援や相談事業

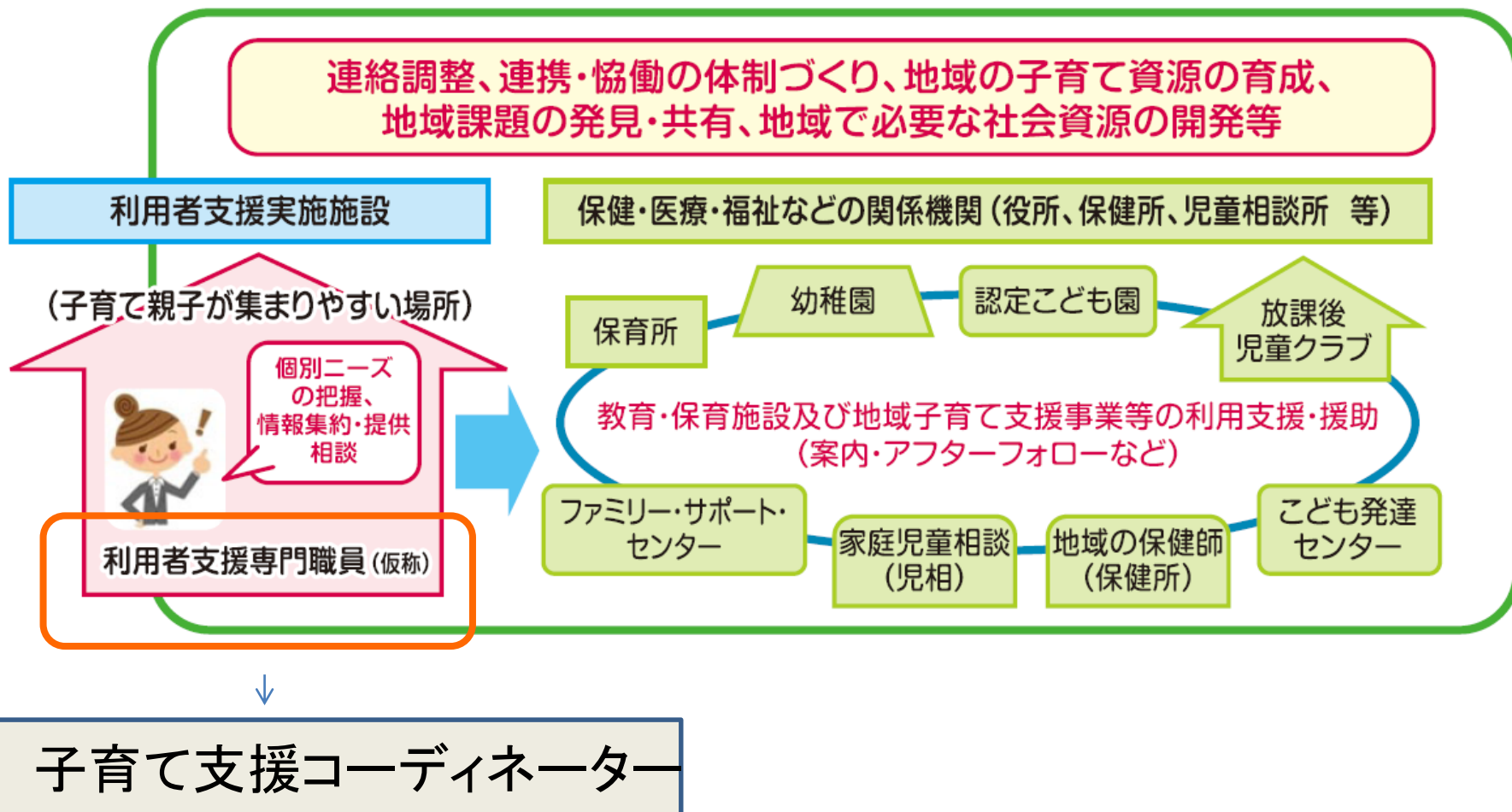
5カ年の計画的な実施・整備

保育所・幼稚園・認定こども園
小規模保育・家庭的保育 など

地域子育て支援拠点、一時預かり、放課後児童クラブ など

利用者支援事業のイメージ図

厚生労働省資料より



地域子育て支援拠点事業を核とした利用者支援事業の普及へ

「子ども・子育て支援法」 第四章 地域子ども・子育て支援事業（第五十九条） 一部抜粋

子ども及びその保護者が、確実に子ども子育て支援給付を受け、及び地域子ども・子育て支援事業その他の子ども・子育て支援を円滑に利用できるよう、子ども及びその保護者の身近な場所において、地域の子ども・子育て支援に関する各般の問題につき、子ども又は子どもの保護者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うとともに、関係機関との連絡調整その他の内閣府令で定める便宜の提供を総合的に行う事業



子どもと保護者の身近な場所＝**地域子育て支援拠点等**において、**利用者支援事業**を推進

1. 子どもと保護者からの相談に応じた、必要な情報の提供・助言
2. 関係機関との連絡調整
3. その他の内閣府令で定める便宜の提供

利用者支援に必要なPOINT

- ◆ 妊娠期からの相談対応
- ◆ 地域の状況等を適切に把握し、ワンストップで対応できる総合窓口
- ◆ 関係機関のネットワークづくり・連携
- ◆ 既存施設・事業だけでなく、地域の子育て資源を充実・強化する取り組み
- ◆ 世代間交流や地域のボランティアとの協働、ソーシャルワークの視点（地域支援）
- ◆ すべての子育て家庭のために実施

活動の紹介 おやこの広場びーのびーの

乳幼児とその親が気軽につどえる施設として・・・ もうひとつの家

「おやこの広場びーのびーの」は、

「0・1・2・3歳児とその親と一緒に過ごせる場所がほしい」という思いで

当事者である親たちが作った

菊名西口商店街の約20坪の「子育てひろば」



港北区地域子育て支援拠点どろっぴ

親子の交流の場の提供、情報提供、講座等の開催に加えて、



●子育て相談事業

- ・ひろば相談(ちょこっと相談) ひろばスタッフによる、いつでも気軽に聞ける相談。
- ・グループ相談 臨床心理士、助産師、栄養士、歯科衛生士等によるグループ相談。
- ・個別相談 臨床心理士による個室での相談。予約制。

●横浜子育てサポートシステム (ファミリーサポートセンター事業)
地域での預かりを通じた支えあい創出のための事業

●人材育成 ●ネットワークづくり

臨床心理士の先生方と共に



第一子の赤ちゃんとおかあさんへ ～はじめの一步 赤ちゃんをつくる私の家族～

お子さんのお誕生おめでとうございます！

自分のお腹にいた赤ちゃんとのご対面はいかがでしたか？

そして子育てで忙しくなった、ご自身の産後の体調はいかがですか？

スタートしたばかりの子育てを応援するために、どろっぷで連続講座を開催します。
皆さんがゆったりできる場を用意して待っています。

●内容： 4回連続講座 年3回

- * はじめまして赤ちゃん、そして私たち
- * 赤ちゃんのことをもっと知ろう！
- * わたしと家族
- * 子どもと過ごすこれから・・・

●対象：区内にお住まいの親子 主に生後2～4ヶ月までの乳児家庭



そのほかにも、「のびのび月曜日」「NP講座」「ほっとサロン@よこはま」など

- ・予防型プログラムの企画運営
- ・個別相談（月6回程度） ・グループ相談のファシリテーター
- ・スタッフ研修、月1回のカンファレンス
- ・スタッフへのスーパーバイズ など

どろっぴの活動風景



キッチンで洗い物（みんなの分も）



遊びのマイスター（雨の日でも）



ひろばミーティング（母たちと）



ママカフェ【かぼちゃプリン】

ご清聴ありがとうございました

新制度への期待

- 豊かな乳幼児期の子どもの育ちの実現
- 人生の根っこである、乳幼児期の子育て支援の充実
- 多様な働き方を保障する制度
- 市町村はコンダクター
当事者、事業者、専門家
みんなの手で！



なんとかしたい!
(より思う人たちがみんなで、前進することになりました。)

にっぽん
子育て
応援団
NIPPON CHILDREN'S PARENTS SUPPORT GROUP

結成シンポジウム!

開催します、5月9日(土)。

開 場 13:00 開会 13:30 終了 16:30
主 催 児童女性と仕事の実践部
主 題 当事者にっぽん子育て応援団
対象者 にとびんの子育てをなんとかしたいと思っている方どなたでも
入場料 無料(事前予約制) 03-6804-8001 13:00~16:00まで

問い合わせ先、03-6804-8001 児童女性と仕事の実践部
12:00~16:00

安心して子育てできる日本をつくらう。



Chon-yaku & baby
1200-0-0100